

ミサゴ渡り

平成 20 年 4 月 20 日発行

弓削野鳥の会編集発行

ナイチンゲール

平山和昭

アンデルセンの童話「王様とうぐいす」あるいは「うぐいす」と



いう作品は「ナイチンゲール」という小鳥を「うぐいす」と訳していて、長い間それが「なんか変だな」と思われながら読まれてきた。(はずだ) 筆者もそうだったから他人様も多分そうだと思う。

日本のウグイスは「ホーホケキョウ」と、まあ正調で鳴

くにしろ、とても美しくて誰もが聞き惚れ、死に神すら退散する、とまではとても思えない。若干のバリエーション、地味な「地鳴き」からはじまり「谷わたり」などあるが、どっちかと言えば単調で騒々しい。物語に出てくるその小鳥は、夜でも朝でも鳴く。そこで「夜

泣きウグイス」とか「夜ウグイス」など無理な翻訳になってしまったのだろう。実物を見も聞きもしないで翻訳するのであるから、乱暴この上ないが、当時は外国文学を日本に紹介することのほうが主目的だったし、それでも読者は、自分の想像力を駆使して、美しくさえずる小鳥を、この上ない美しい囀りをイメージしながら、物語の世界にはまっていたのだろう。だから今となっては昔の人の



努力をまずは評価しなければ、と思う。この童話の題名は、近年では日本でも原作の題名通りの「ナイチンゲール」で統一されつつあるらしい。ではそのナイチンゲールはいったいどういう囀りをするのだろうか？

そういう目で見ると、じつは読者に肝心の具体的な情報が伝わらないのは、今も昔も同じで、結局いまだにほとんど進歩がないということになる。

そこで今はやりのインターネットで「ナイチンゲール」をいろいろさがしているうちに面白いサイトにでくわした。テキスト（文章）を所定の場所に打ち込むと、それがナイチンゲールの囀りに変換さ

れる、というのだ。ドイツだかのサイトだが、なるほど時代は変わった。知らないことは世界中の人がよってたかって教えてくれる世の中になった。

打ち込む文字については特に意味が通らなくてもよさそうだったので、パソコン画面上の数フレーズをコピーアンドペースト（パソコン上で写し取って貼り付ける操作）して聴いてみると、画面上の姿はウグイスに似た小鳥が、尾をふるわせ首をうち振りながら、とても美しい声で囀り始めたではないか！！

日本で聞けるとすれば「クロツグミ」がいちばんちかいかな？

あるいは、初夏のシロハラも似たようなフレーズで歌う。

なにせ小鳥の歌はとても複雑。おいそれと文字で表現できる物ではない。ということで、アンデルセン作の「ナイチンゲール」はこんな歌声なのです。下記のアドレスのホームページでぜひお試しあれ。

<http://www.nightingale-song.com/>



(挿絵のイラストは岡村美恵子さんの作品です。笠岡干拓地で観察したタゲリとケアシノスリです。特徴がよく出ていてとても色合いもいいですね)

2月24日恒例の町外遠征を実施しました。まだまだ寒さが身にしみる気候でありましたが、早朝から10名あまりの会員が、2台の車



に分乗し、岡山県笠岡干拓地目指して出発しました。今回は、以前にも観察した、ハイイロチュウヒ、タゲリ、チョウゲンボウ等の弓削では観察で

きない珍しい野鳥が見られるかも知れないと期待で一杯でした。

笠岡干拓地は、笠岡湾を東西両堤防で締め切り、海面1,811haを干拓する大規模事業で、多年、土地と水に恵まれなかったため発展を阻まれてきた笠岡市にとって、このすべてを一挙に解決するものでした。昭和41年12月工事着工から平成2年3月完成と長い歳月をかけて完成したものです。私もその歴史をよく知らずにいっていましたが、そのおかげで、野鳥にとっても、バーダーにとっても自然の楽園の恩恵にあずかることになったわけで、ありがたいことです。池の近くの野鳥観察小屋では、ミコアイサ、キンクロハジロを

はじめ、たくさんの水鳥を観察することができました。寒さで双眼鏡を持つ手も痺むほどでしたが、楽しい 1 日を過ごすことができました。

ついでに鳥見（チュウヒ？）

松本敏和

1 月 27 日所用で西条市丹生川に出かけることになった。午後の会なので休暇をとって、平日の朝をのんびり過ごそうと思っていたが、貧乏性なのか、休んだのがうれしいのかいつもどおりに目が覚めた。手持ち無沙汰で地図を広げて場所の確認をしてみると、壬生川駅の近くには河川があり程近く海に注いでいる。ひょっとするとカモでも観察できると思い、急いで鞆の中に荷物にならない小型の双眼鏡とコンパクトデジカメを忍ばせ家を出た。

10 時すぎには現地に着き駅近くの公園で双眼鏡、カメラを取りだし準備 OK。スーツ姿に肩掛け鞆、首から双眼鏡、手にはカメラとなんとも奇妙な格好だが、本人は気にも留めていない。河川沿いを海に向かうがお目当てのカモの姿はなく、アオサギ、セグロセキレイ、ドバトやハシボソガラスといつも見慣れた鳥ばかり、落胆しつつも海を目指し住宅が途切れたところで、目の前には見渡す限り一面乾水田、これはいけると胸が躍る。

しかし、現実には甘くなく 50 羽を超すアオサギの群れが羽を休め

ているだけだ。トボトボと畦道を行くとミサゴが海と陸を行き来する姿を楽しみに「まあいいか」と納得していると、目の前の電柱に小さなタカが止まる、チョウゲンボウだ。カメラを向けるがマニュアルフォーカスではピントが合わずオートに切り替えていると飛び去ってしまい、手元にはぼやけた電柱の写真だけが残った。必死に

なりそ
すうち
にコガ
会の時
そろそ
げる前
ギの群



の姿を探
に貯水池
モを発見、
間も迫り
ろ引き上
にアオサ
れを写真

に収めようとファインダーを覗くと中程に茶色いものが、てっきりチョウゲンボウだと思い込み夢中でシャッターを切った。ヒラヒラとした飛び方や飛び立ったときの小鳥の騒ぎ方など明らかにトビとは違うと確信し、会に向かった。

所用を済まして急いで帰って、パソコンの前に陣取り確認するが、周りのアオサギと比較するとカラス大と見てとれ、チョウゲンボウにしては大きすぎると疑問に思った。ぼやけた写真と図鑑を比べる

とどうもトビでもなさそうだ。かなり期待感を含んでの話ではあるが、結局、私はチュウヒと結論づけた。真実はいかに？

こんなことなら荷物になってもいいから、いつも使い慣れた双眼鏡に一眼カメラを携えてもっと早くくればと後悔するが後の祭り、労を惜しんでは良い鳥見はできないということか。

この日観察できたのは、ダイサギ、アオサギ、コガモ、ミサゴ、トビ、チュウヒ？、チョウゲンボウ、ドバト、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス以上 16 種だった。

ヒナを拾わないで

日本野鳥の会

野鳥のヒナが地面にいるときはそのまま、静かに見守りましょう。

近くで親鳥がヒナを見守っています。野鳥は、巣立ち後、親鳥と過ごすわずかな期間（1週間から1ヶ月）に「何が食べ物で、何が危険か」などを学習して独り立ちします。春から夏にかけて野鳥の子育て期間になります。自然は自然の掟で淘汰されていきます。人間が横から手助けすると自然界のバランスが崩れる虞があります。自然は自然のままに！

（※愛鳥週間（5月10日～5月16日） 野鳥愛護のために設けられた1週間、バードウィークです。本来の目的は繁殖期に入った野鳥に対して障害にならないように配慮し、併せて野鳥とそれを取り巻く環境について再確認するものです。）

平成 20 年度弓削野鳥の会活動計画

今年は弓削島の鳥を観察してみましよう。

集合場所：公民館（午前 9：00 集合）

開催日	活動内容	場所	備考
4月 27日	夏鳥を探そう	三山方面	
5月 25日	渡り鳥の観察	三山方面	オオルリ
6月 29日	水辺の鳥の観察	佐島方面	バン・カイツブリ
7月 27日	ツバメの観察	上弓削方面	
8月 24日	弓削の野鳥 (バードリスニング)	三山周辺	ホトトギス・ツツドリ
9月 28日	渡り鳥の観察	狩尾方面	ヒタキ類
10月 26日	冬鳥の観察	日比方面	
11月 30日	猛禽類の識別	狩尾・大谷方面	ノスリ
12月 21日	冬鳥の観察	日比・鎌田方面	
1月 18日	町外遠征	四国方面	
2月 22日	冬鳥の観察	松原・日比方面	
3月 29日	春を探そう	三山周辺	

※雨天の場合は中止

※都合により日時が変更になることがあります。その際には連絡網で回します。

※公民館に集合し、それぞれの車に分乗し観察場所まで行く。

※参加者は各自必ずゴミ袋を持参し、放置されている空き缶などのゴミを拾う等、自然環境の美化に努める。

◎島外観察については旅費：実費個人負担とする。また、弁当等についても各自準備すること。